

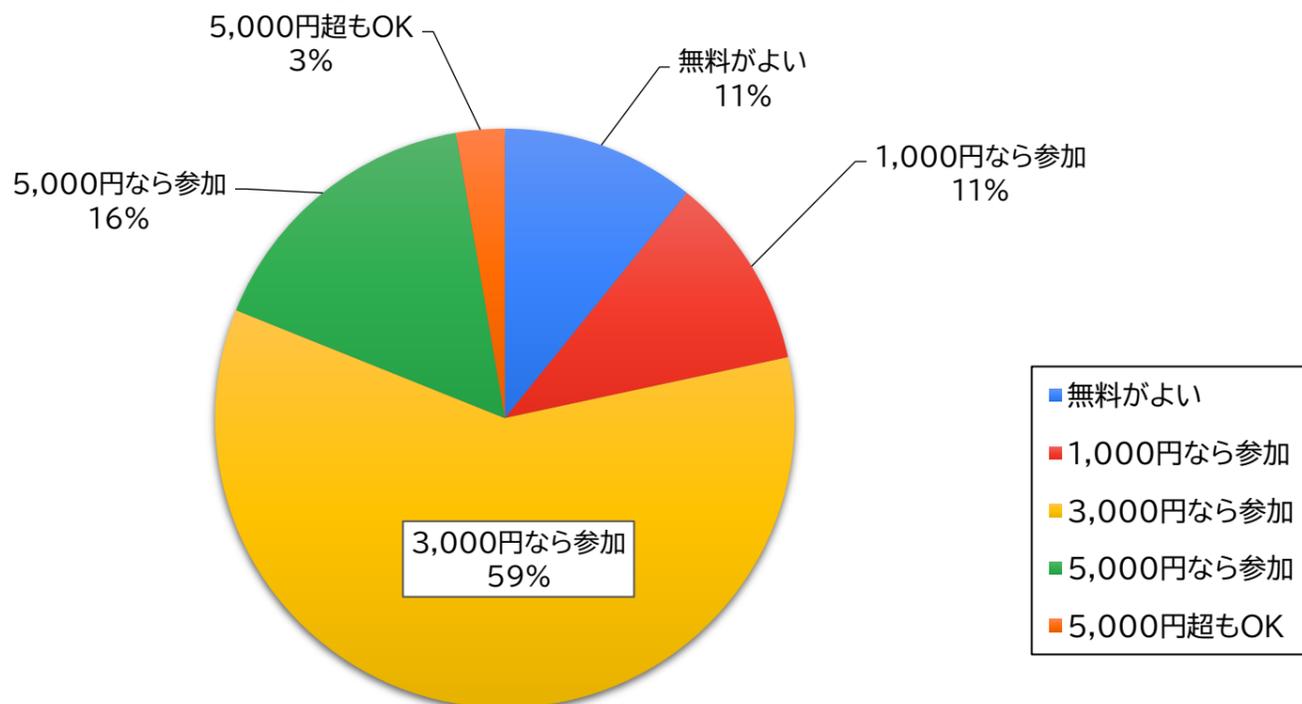
第2回テーマ:『トリチウム処理水のリスコミのあり方』

【開催日】2023年6月25日(日) 13:00~17:00

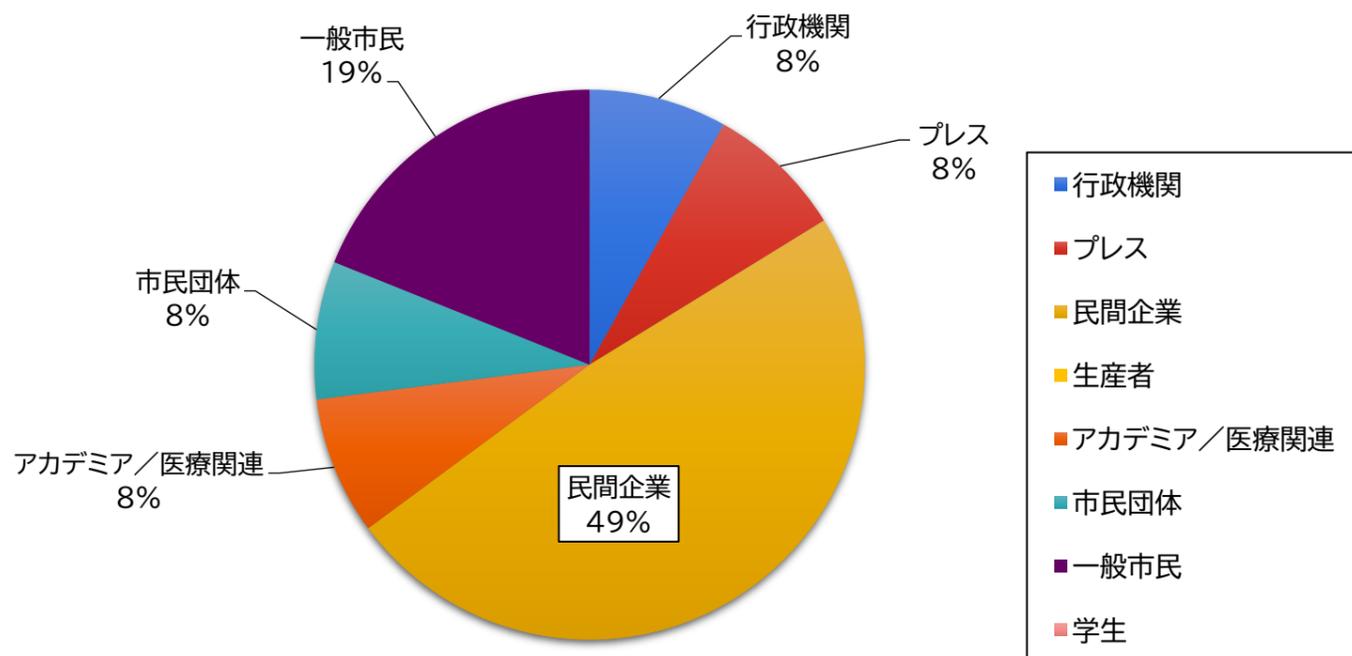
【開催場所】東京大学農学部フードサイエンス棟中島董一郎記念ホール+オンライン開催(Zoom)

アンケート回収数37枚(参加者:96名、演者4名を除いた回収率:40%)

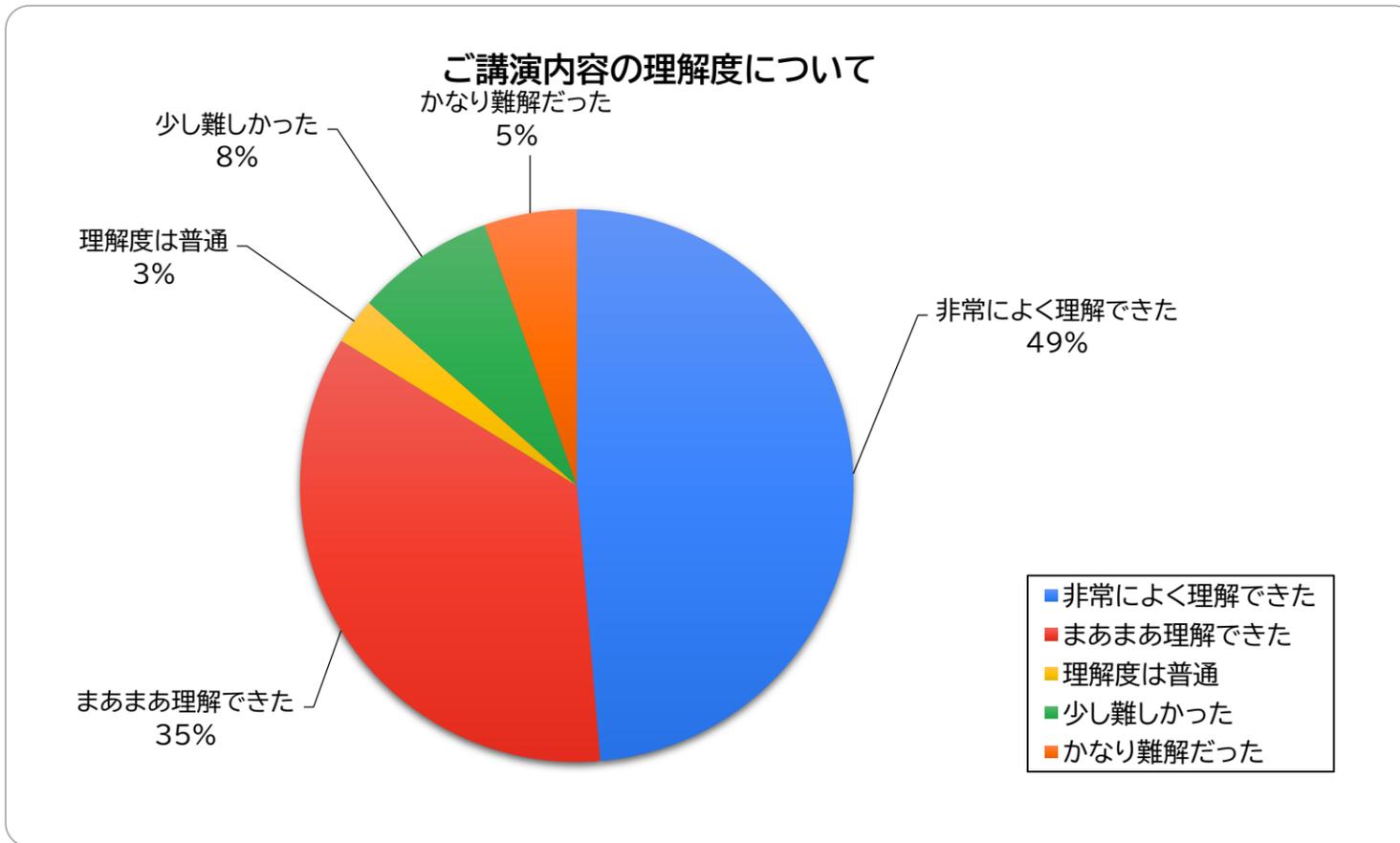
### 参加費(NPOへの賛助)について



### 参加者のご職業について

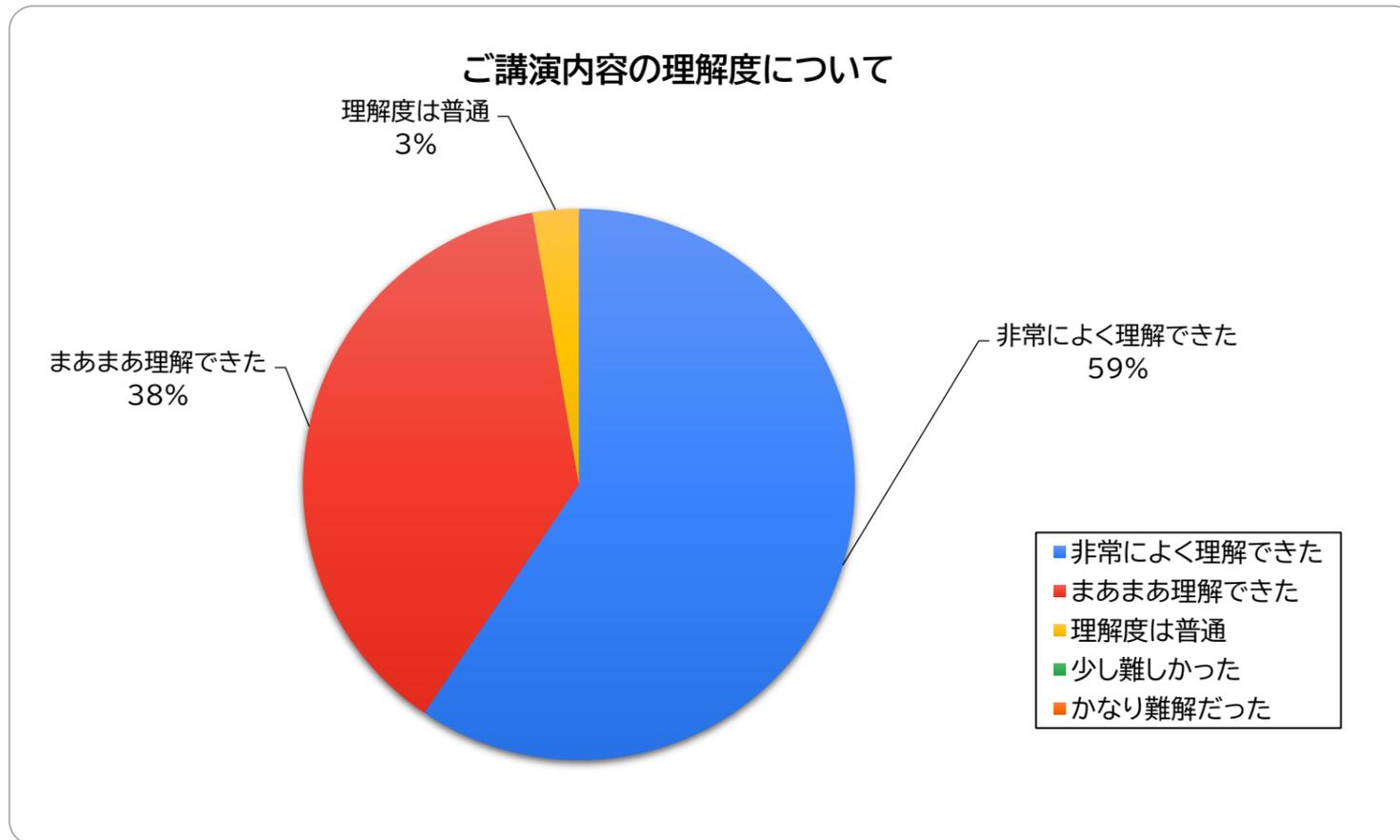


①田内 広 (茨城大学理学部教授)『トリチウムの生体影響について:科学的な視点から』



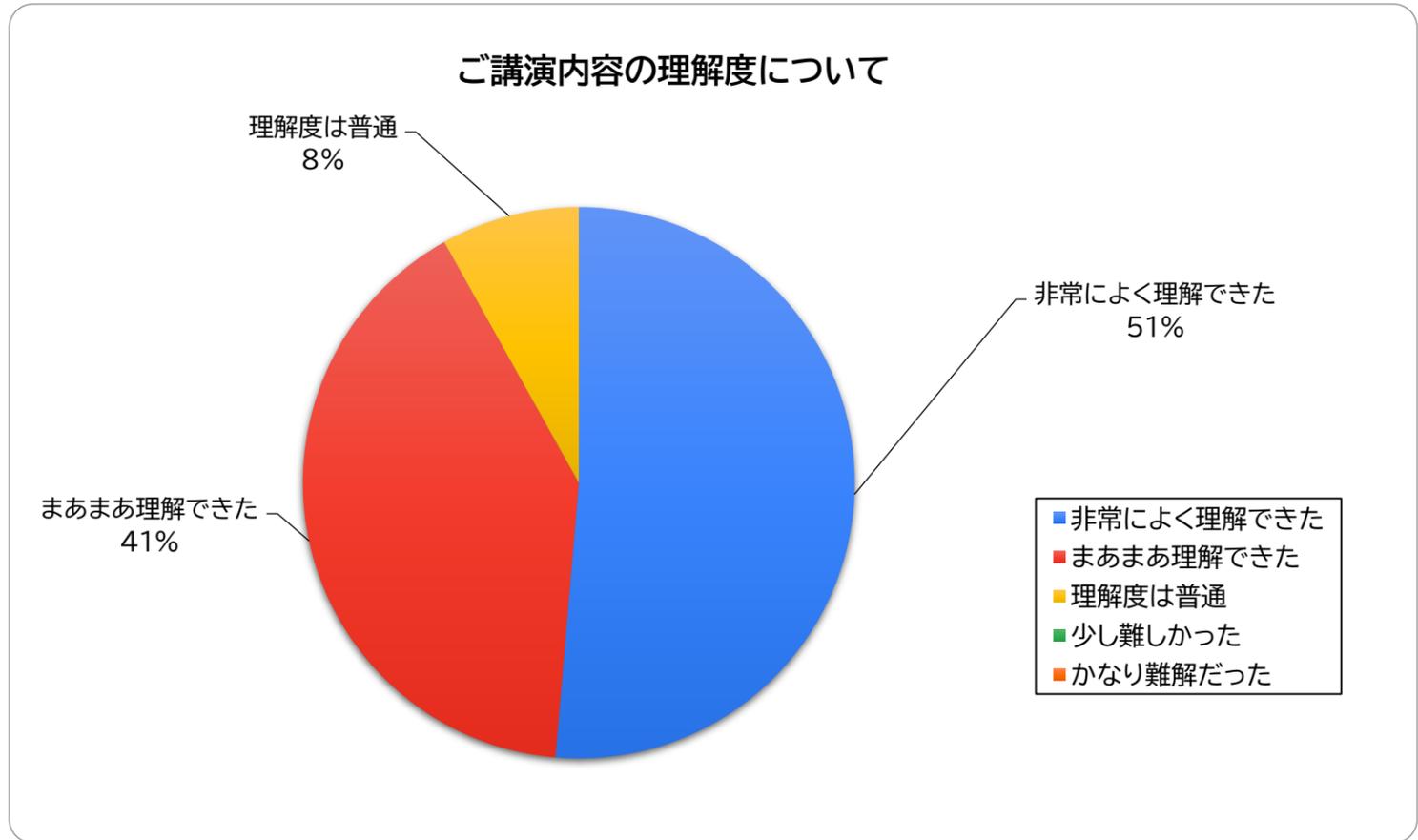
ALPS処理水に含まれているのは本当にトリチウムだけなのでしょうか？
処理水問題の根幹について、改めて考えるきっかけになりました。
人体への影響度を科学的に理解することは重要であり、一方目に見えない不安についても理解できる。安全性をしっかりと発信していく必要があると感じました。
トリチウムがどんな物質なのか、小学生でもわかる説明で、危険ではないことがよく理解できました。
トリチウム=放射性物質=危険・ガンになるのではなく、日常の紫外線や飲酒にも同等のリスクがあること、またDNAはそれらによって破壊されても修復できる力があるということがわかりました。
基本的なことを解説いただけありがたかった。自然界にもともとある物質で、原発由来よりもととの分量の方が多いことがわかりました。
処理水中のトリチウムによる環境や生体への影響の程度について、よく理解できました。
トリチウム水素の壊変によって放射されるβ線が水中では最長でも6μmの飛程距離しかないことや、生体内での生物学的半減期など初めて知り、生体への影響が無視できる程度に低いことがよく理解できました。
改めて、基礎研究ができていて感じました。これを消費者に伝えるのは難しいですが、それでもガイドライン的な分かりやすい形にできれば、と思いました。また、何度も繰り返し発信することで、リスクの相場感を体得する方向に行くと思います。
素晴らしいご講演を拝聴できて感激しております。市民団体という立場もあり、沢山の専門家のお話を聞いてきました。わかったつもりだったことがしっかり腑に落ちた気がします。田内先生のお話は、大人向けの絵本として普及したいような気持ちになりました。
田内先生が「小学生向けの説明」とおっしゃったところは、すごくわかりやすかったです。そのような説明があると、一般の人にもよく伝わるのではないのでしょうか。
ガンマ線とベータ線の危害の違いと基準の考え方が知りたい
わかりやすく説明して頂いていた印象ですが、ボリュームが多かったので、講演時間中にフォローが難しかったです。科学的には安全と認識していた内容が詳しく分かる内容でした。
アクティビスト(活動家)に対しては科学者はどのように臨めばいいのでしょうか。
様々な情報が飛び交う中、一般市民に真実をどう伝えるのかは大きな課題です
水素原子の擬人化は理解に資するのではないかと思う。ただ、腕の太さなど、見にくい部分は改良の余地があるかも。
温泉などの効用は怪しいですが、微量の放射線による健康効果というのはないのでしょうか。
途中から参加したため、全部聞けず残念です。後でYoutubeの限定公開を確認したいと思います。
非常に詳しいお話しありがとうございました。
トリチウムについて大変わかりやすいご講演でした。トリチウムに関する誤解等大変勉強になりました。
たいへんわかりやすい説明をありがとうございました。
データに基づき客観的な説明を初めて聞かせてもらいました。丁寧で真摯な表現に内容が難しいのに引き込まれるように受講出来ました。一般消費者へのリスクに最適な講師です。
放射性物質については、原爆投下のリスクイメージが強すぎて正しい情報を入れることができていないと感じた。
大変よく分かりました。汚染水に重水素の話が出ず、トリチウムだけ出て来るのは量の問題ですか？
トリチウムについての知識が乏しかったため、誤った情報や、偏った意見を聞く前に、科学的な視点から淡々と事実だけを知ることができてよかった。
実態をよく知らないまま、「最近ニュースでよく聞くから」という理由で危険だと判断することの方が、危険だと感じた。他の放射線より群を抜いて生体影響が大きいとは言えないことや、人間はDNA損傷を修復できる力を持っていることを知れば、極端に恐れる必要はないと分かる。日本人のがん死亡に寄与する要因の割合としては、喫煙や食事、肥満の方が大きい、ニュースでは視聴者の目を引く必要があるため、そのことはあまり報道されない。
最近では、誰もが気軽に情報を発信・受信できるようになったため、気づかないうちに、偏った情報しか得ていない可能性がある。消費者ひとりひとりが情報リテラシーを身につけ、リスクを判断する必要があると感じた。
わかりやすい説明を伺い、一方でなぜ間違っって伝わるかのポイントが見えました。ありがとうございました。

②井内 千穂 (フリージャーナリスト)『福島処理水は「特別」なのか』



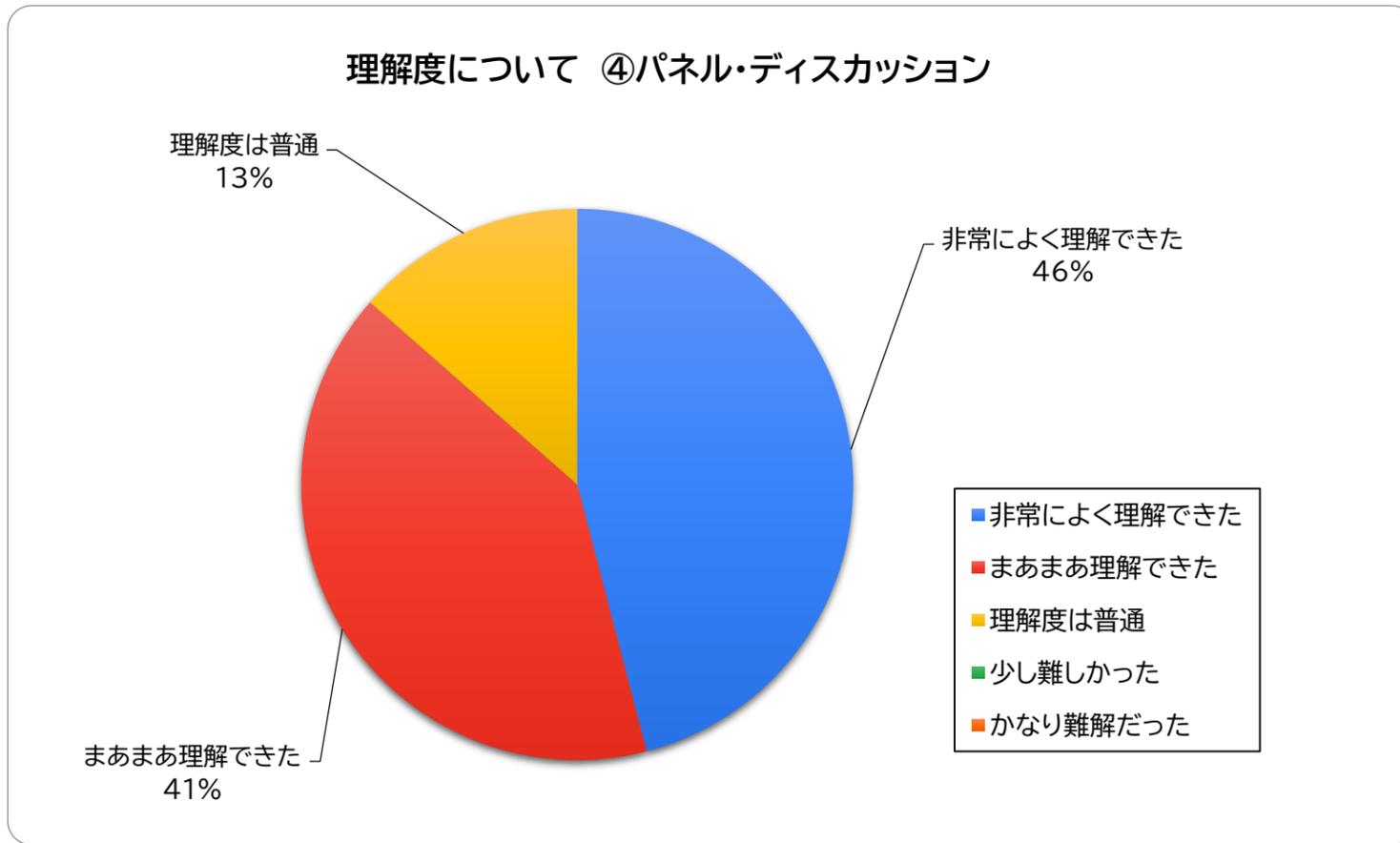
福島県にのみ着眼されるのは当然ですが、北部隣接の宮城県や南部隣接の茨城県でも風評は起きています。この範囲拡大を防ぐために何か必要だとお考えがとおありでしょうか？
私も風評被害を起こした当事者として反省しました。やはり、自分の問題として考えることが最も大切ですね。ありがとうございました。
世界全体の視点をもって議論する必要があるが、人は見えないことへの不安や恐怖があるのも事実。配信し続けることが重要であり、また科学が進歩する今日、受け入れられる方法を模索必要もあると感じました。
主婦の目線で、子供たちに危険な食品を摂らせないようにという思いはとても共感しました。時間の経過とともに、国民の汚染水に対する認識が薄く、自国での問題なのに、無関心なのが懸念されます。
とても良いお話でした。安全性-危険性の相場感が必要で、不安な人に「科学的に安全だから許容せよ」が通じないことがよくわかりました。
「リスクの相場観」というキーワードが印象的でした。当事者間で「リスクの相場観」を共有することが、リスクコミュニケーションの目指すべきゴールなのではないかと感じました。
マクロ視点からの風評被害の払拭は、今は難しい。でも生産者との共感を切り口にするのは有効だと思います。Z世代は、共感を大切にしているようです。そして、得意のSNSからのティール型のつながり、がきっかけになって、この問題が解決の方向に進むのでは。そんな風に期待したいです。
井内さんのご活動にとっても共感しました。私も被災地に1週間後に入り、その後2年間団体として支援活動をしました。「現地のは食べない方がいいよ」と言われたり「被爆の可能性がある地域にボランティアを派遣するなんて!」と言われたこともありました。被災地とその他の地域の意識の差はとても違和感がありました。井内さんのお話を聞いて、なぜか心が洗われたような気持ちになりました。ありがとうございました。
福島漁業者の本音がよくわかりました。ポイントがよく絞れた内容でした。良かったです。
国、生産者、国民の構図で、現状、何が起きているのか、これからどんなことに取り組むべきなのか分かりやすく説明して頂きました。
現場に関わり続けることの大切さがよく理解できました。
国と漁業者と消費者の相互間に横たわる問題をわかりやすく説明いただき、また解決策も提案され、とても勉強になりました。
子を持つ消費者としての思いが伝わりました。この思いに応えることが大切だと思います。
生産者と消費者の対話が大切との指摘には大いに頷く。ただ、だれが仲介するかが問題。国はそういうことが下手だし、東電もできない。では、誰が？
バスツアーもセミナーも興味がある人が参加するので、興味のない人に対するリスクコミュニケーションは無理と言わざるを得ません。そういう人は、科学的であるとかそう言うことはどうでもよく、何となくで全てを判断してしまいます。
小島さんの講演部分で紹介されていたとおりのメディア側の主張だと感じました。
井内先生の専業主婦の時の考えと今の考えが大きく変化があったこと非常によくわかりました。こういったことをもっと是非発信していただき、いまだに福島のものを含め野菜等(放射線を浴びている可能性、それを隠すために産地偽装してたりするから)は食べさせないと言っている人たちもいるので少しでも意識が変わることを願っています。
まさに福島第一原発を見学された方の説得力あるご講演でした。なぜ福島処理水が特別だと思われるのか、国も東電も肝心な部分で曖昧にしてしまうように感じます。実は最近私も福島第一原発の見学に行ってきました。東電福島第一廃炉推進カンパニー責任者から詳細な説明を受けましたが、ALPS処理水とトリチウムの関係について、明確な説明がなくわかり難くしているのではないかと感じました。
実体験からのお話が参考になりました。
福島現地の住民の思いの状況を知れたことが大変良かった。ローカル新聞記事の論調を全国紙は風評被害記事だけでなく報道すべきだと思います。
改めて今夏の「処理水」は特別ではないということを理解した。情報は広く公平に収集することが重要と感じた。
一般市民を代表する形で率直なご意見に共感しました。
科学的根拠の有無に関わらず、「不安だから買い控える」ことも、風評被害に加担しているという言葉が印象に残った。世界中の原子力発電所からも、トリチウムを含んだ水を排出している事実を知らなかったため、風評被害を起こさないためには、自ら情報を集めることも重要だと感じた。
また、漁業関係者は魚への影響を恐れて処理水放出に反対しているわけではなく、国民の理解が得られていないことを理由に反対していると聞き、国民ひとりひとりも無関係ではなく、正しい情報を得た上で意見を持つ責任があると感じた。
処理水の放出について、賛成、反対のどちらがよい、悪いということではなく、報道機関が様々な立場の情報を報道しないことや、国民が無関心で知ろうとしないことの方が問題であると学んだ。
身近な視点で分かりやすかった。

③小島 正美 (元毎日新聞編集委員)『処理水報道に見るメディアの分断を考える～記者はどこまで自由か』



やはり、メディアの影響は大きいですね。どこの国のマスコミなの？って思うような記事を見ると、本当に悲しくなるし、腹立たしくもあります。マスコミはそういったものだと思われてしまっているから、新聞離れも進んでいるかもしれませんね。
事実を発信し、また公正に配信し続ける必要があると感じました。人は発生した時は熱があるも、喉元を通れば忘れていきます。でも、当事者や現場は常に直面し、課題を解決していかなければならない。人が目標をもって共存できる情報発信が重要だと感じました。
メディアの報道の方向性がそれぞれ異なるので、偏った情報で凝り固まらないように、広く情報を取り入れなければならない必要性を感じました。処理水と汚染水の言葉の使い方でも、安全か危険か読む者への印象は大きく変わります。真実を読み解く力が必要だと感じました。(新聞記者が正しい、伝えたい情報が、デスクの方針で伝えられないジレンマがあるのですね)
矛盾する現状をよくとらえていらっしゃると思いました。全漁連さんが「今さら賛成と言えるか」とおっしゃったとのこと。「理解するが立場は反対」という事情が、理解できました。
リスクコミュニケーションにおけるマスコミの役割・影響性について、よく理解できました。コミュニケーション手段を実質的に独占しているマスコミが、その報道責任を放棄しておきながら、国や政府に説明責任を転嫁する無責任な態度には、もはや言葉もありません。
メディアの分断は多様性の面では、ある程度は必要だと思います。未知の事象を含むマターは議論の中で、不安が増幅されるという皮肉があるのですね。だから、現場の生産者の意見は有効な報道になると思います。Z世代のSNSにも期待ですね。海外発信も大切で、先日、来日したパラオ大統領は理解を示してくれましたね。海外は味方を増やすことですね。また、SNSでの海外発信もいいかも。一部のZ世代はできそうですね。
貴重なお話をありがとうございました。私共は、原発事故1週間後から、避難所にいる患者さんにアレルギー用食品を搬送し続けていたため、事故後数ヶ月はメディア各社が私共の事務所に来ました。私たちへの取材が目的ではなく、「会社から被爆の危険がある地域には入るなど言われているため、現地に行けないけれど、現地にいる人へのインタビューをしたいから、現地の被災者を紹介してほしい」というものでした。その時に、記者は「会社の方針の中で仕事するしかないのだ」ということを目の当たりにしました。これは象徴的な出来事でしたが、小島さんのお話を聞いて改めて確信しました。メディア(や市民)は、それをどう乗り越えて「ファクト」を手に入れるのか？ 悩みが増えました。
毎回、新ネタ満載で、本当に面白く拝聴しました。ありがとうございます。
報道が全て同じ、健全と言えるか？ やや疑問 ウソはいけないが、赤や青、左や右、無党派、学術派、など様々な論調があることがヘルシーでは？
各メディアの報道スタンスは、各記者の個人的な信念を超えて、企業理念のような形で、事実という素材を、自分達の主張のために利用しているように感じた。自分自身、東日本大震災直後に、大量に発生した木材系がれきの成田山での焚き上げについて、ニュース番組からインタビューを受けた経験がある。あらかじめ、自分達が報道する内容が決まっていた、その内容に合うコメントを、都合の良い部分だけ切り取られてしまった経験がある。大手メディア以外のソースで、事実を伝えるルートが重要ではないかと感じた。
記者が速報に追われ、人員合理化がすすみ、熟考する余裕を失いつつある現状を考えると、大手メディアの分断の改善は遠のいているように思えます。原発立地地域の地元メディアは、人員配置がまだ充実しており、地元の切実なテーマだけに試行錯誤の努力をしている記者も少なくありません。
会社の方針に縛られて記者が自由に書けない点への解決案を提示してほしい
メディアは、ニュース、報道番組以外にもバラエティー、旅番組等様々あります。これらの活用も必要と思います
日本の新聞社の社論により分類ができるという指摘は有益だったが、そもそも社論を誰が決めているのかについても示唆をいただきました。また、社論は広告掲載にも反映しているのか(例えば朝日は政府広報の掲載を拒否するのか)も知りたい。
国の責任にしておけば、気が済むという人が多すぎるのがよくわかりました。当事者ですらそうなら、処理水のリスクは絶望的でしょう。
ためになる講演を拝聴できました。ありがとうございました。
ありがとうございました。やはり影響力のあるインフルエンサーを使うことは重要ですね
メディア側の実情を鋭く解説してのご講演に、読む側の目線を問われる思いです。
マスメディアの姿勢について考えさせられました。
いつもながら小島さんの苛立ちを感じます。報道は事実を伝えながら論評すべきです。多くの一般人はバラエティーニュースショー&週刊誌記事から報道を受けているのが実態です。バラエティー番組を利用して事実を伝える方策を考えて国民の知識を向上させ意識を高める事が出来ないものではないでしょうか。風評被害ばかり報道する新聞社は処理水放流後いかなる記事を書くのか注目しています
新聞やTVというマスコミから流れる情報は「正しい」と思われるため、発信者として正しい情報を伝えることが必要 個人の考えと事実の整理と受ける側も正しい判断ができる知識が必要と感じた
メディアの中でも宮仕えみたいな苦悩のようなものがあるように聞こえましたが、どうでしょうか。イデオロギーまでとは言いませんが政治的に利用されているように見えますが政治家の役割をもう少し掘り下げてもらいたいと思いました。
報道機関や地域(福島と福島以外)によって、報道の方針が全く異なり、記者自身が書きたいことを書けるわけではないという点が印象的だった。特に、「安全な情報は報じられない傾向がある」という部分には大きく共感した。トリチウムに限らず、他の食品安全に係る問題についても、「安全である」という情報は報じられにくい上、消費者にとって「危険」「危ない」といった情報は目につき、印象に残りやすい。国などの公的機関が発する科学的事実を、私見を交えず、そのまま伝える報道機関の必要性に加え、消費者側も、幅広い媒体から情報を得る努力を行う必要があると感じた。風評被害をなくすためには、メディアは国任せにするのではなく当事者意識や責任を持って報道する、消費者はどの媒体がどういう報道をしているか比較したり、科学的な視点を持って情報を受け取ったりするべきである。
地方紙の書きぶりがこの先どう変わっていくのかを注視していきたいと思います。比較が大変興味深かったです。ありがとうございました。
処理水報道の各局の違いも含め興味深かった。

④ パネル・ディスカッション(進行:SFSS山崎)『トリチウム処理水のリスクのあり方』



<p>こういった論議を、もっと多くの人に聞いていただきたいと感じます。本当にいいお話が聞けました。</p> <p>東電や国の隠蔽問題は、国民の信頼を大きく損ねてしまいました。トリチウムがどんな性質の物質なのか、どのように自然界に存在するのかなどの丁寧な説明を時間をかけて発信することを怠り、トリチウムのキャラクターで親しみをもってもらおうとする安直な方針は、国民により不信感を与えてしまい残念です。</p> <p>「安全」と「安心」の乖離の解消がリスクコミュニケーションの本質だと思っていましたが、「理解の欠如」が乖離の原因、という中高生の調べ学習の結論は明察だと思いました。</p> <p>たしかに、食品衛生学のレポートでも、成績の良い学生層ほど科学的な「安全」を重視するのに対して、成績がよくない、理解の乏しい学生層は主観的な「安心」を重視する傾向があります。</p> <p>ただ、一般市民を対象とした公開講座等では、科学的に「安全」であることを説明しても、「不安」を感じる方はおり、そのような方々の話を聞くと、単純に「理解の欠如」を責めるだけでは解決しない問題のようにも感じ、「不安」を感じる方々の心情に寄添うこともまた重要なことのようにも感じています。</p> <p>風評被害は消費者の基礎知識・理解の広がりには限界があること、メディアの報道の偏りにあると思っていました。それでも、官民での発信が大事で、繰り返しが重要だと思います。民ではメディア関係者の是正(または気づき)、Z世代などのティール型の理解醸成に期待したいと思います。また、国民がメディアの特性に気が付かないことも、風評被害の真因の一つかとも思います。</p> <p>本筋から大きく外れた発言を、びしっと軌道修正されていて、敬服いたしました。</p> <p>三者三様で、実に興味深い構成でした。</p> <p>各講演の補足になり、内容がより深く理解できた。</p> <p>分断改善の道筋について、それぞれの意見をもうすこし聞きたかった。</p> <p>やはり、漁業者自身が風評被害を心配して反対しているという現実は重いと思う</p> <p>インターネットを介した情報拡散と従前のメディアを介した情報拡散についての小生の質問を取り上げていただき、ありがたかった。小島さんにもコメントをいただきました。</p> <p>まだまだマスメディアの力はあるとは言え、私のようにまったくテレビを見ない人も増えています。新聞も取らない人が多いです。こういう中ではマスメディアに過剰に期待するのは難しいと感じました。</p> <p>イデオロギー強めの説明を中断していただき、ありがとうございました。</p> <p>非常に楽しく拝聴させていただきました。ありがとうございました</p> <p>講演者のそれぞれのお立場でのディスカッションは大変勉強になり、有意義でした。</p> <p>リスクのあり方について考える良い機会になりました。</p> <p>科学的内容・被災地の状況・報道の実態を議論したバランスの良い議論でした</p> <p>若い人だけでなく、人生経験の長い人こそいろいろな意見があることを理解する、認識してコミュニケーションをとることが必要と感じた</p> <p>質問と意見とを分け、質問の内容の簡潔化を山崎先生にお願いできたらと思いました。</p> <p>「関係ないと思っている大多数の人に届けるのが大事」という言葉が挙がったが、現在の業務において、無関心の人に対して情報を届ける難しさを実感しているところである。マスメディアは不特定多数に情報を届けることに長けているため、当事者意識を持ってステークホルダーと関わりを持つことで、トリチウム処理水のリスクのあり方が良い方向に進むことを願う。</p> <p>また、消費者団体の方から挙げた質問は、知りたかった内容に近く、非常に興味深かった。その回答の中で述べられていた、「安全に関する情報は積極的にプッシュし、安心に関わる情報は知りたい人が知れる状態にしておく」という視点は今までになかったため、心に留めておきたいと思った。</p> <p>「リスクの相場観」というワードも挙げられていたが、一時の感情や一時のリスクについて議論するのではなく、1つの問題に対して広い視点を持ち、他に議論すべき点がないか、長期的に見たリスクはどうかという視点を持つことが重要だと感じた。</p>
--

## ⑤ 今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でもお教えてください

的確な情報を集めて提供できるようにしておくことが、非常に重要だと考えた。
生協が放射能検査のデータを配っていることも、風評被害につながるというご意見、まさにそう感じます。安心を商売にしていると誤解されないよう、改めて襟を正したいと思います。
ヒトである以上、風評被害がなくならないことを理解する必要があり、建設的な方法、共存できる方法を模索する必要があると感じました。そのためにも科学的な知見も積み重ねながら安全・安心な情報を発信し続けることが国の責務であり、企業にも課された課題だと感じます。発言された方の中で子供は事実を正しく理解し、解決する方法を模索していると仰っていました。まさにその通りだと感じました。私たちは、正しい情報を、次の世代にしっかり引き継ぐことが重要だと思います。それが持続可能な社会を作り出すことになると考えます
タイムリーなテーマで良かったです。処理水問題は、リスクの相場感だけでなく「受け入れにくいリスク」だと感じました。国の原発政策への信頼が低いからです。難しいですね。
今回は、当にリスクコミュニケーションの本質が問われるテーマであり、同時にリスクコミュニケーションの難しさを感じました。科学的に妥当な「リスクの相場観」を当事者間で共有することで、「安全」と「安心」の乖離を解消することが、リスクコミュニケーションの目指すべきゴールの一つだという認識に至りました。
ご講演が安全のエビデンス、現地との共感による風評被害の緩和、マスコミ報道の特性といったように、バランスよく配置されていて、意義深いと思います。また、時間が経ったら、再度、変化・改善の経緯を研究してみてもいいかと思えます。会場に行きたかったですね。
余談ですが、私自身も団体も、処理水の放出は当たり前のことだと思っています。しかし、日頃の連携先や人的ネットワークの多くは「反原発」の立場です。ひとつひとつのテーマを取り出して「今日は処理水の話」と明確に切り離すことができない人や団体がほとんどです。声の大きい彼らを変えることができれば、処理水の問題を解決できるのではないかとひそかに思っています。処理水の問題は「安全性」をわかりやすく伝えることができるので、対話のための入り口になるのではないかと。
田内先生、井内さんの講演は初めてお聞きするもので、大変勉強になりました。
風評はメディアが生むとの見方は納得がいくところがありますが、そもそも風評とは何かという視点も必要に思えます。
論点だとても大事だと感じました。放射性物質というテーマ一つとっても、そこから派生する課題は非常に広いので。
討論では市民運動家も交えて、立ち位置による見え方の違いをクリアにする選択もあったのではないのでしょうか。議論が混乱したり長引いたりするリスクはありますが、リアル参加が増えてくればよいと思います
講師の選択、時間配分など、適当だったと思う。
風評被害という得体のしれないものについて、自分はどうすればよいか、考えさせられた。
SNSの世の中になって、偏った情報ばかりを手に入れやすくなり、興味のない情報は見なくなります。発信される情報は過多であり、その中でリスコミを続けるのは難しいと感じています。
トリチウムについて、国や東電はホームページや資料等あるいは東京駅などでの掲示などで済ますことで仕方がないとは思っていないか今回のフォーラムで改めて感じます。
さらに活発な議論ができる場となるよう、参加者の方々から期待されていると感じました。
食の安全の議論に核兵器・原発の議論が持ち込まれる危うさを感じました 議論の進行でうまくさばいた事見事！！
放射性物質は「安全」よりも「安心」のウェイトが高く、とても難しい問題だと感じた。 関わる人が各々事実を適切に情報発信することの必要性を感じた 東電の方の意見も聞いてみたかったと思いました。パネルディスカッションだけでも。 本題から逸れそうになった際、止めていただけたのは良かったが、全体を通して、「食」から少し離れた部分もあり、もう少し「食」にフォーカスしたトリチウム処理水のリスコミについて聞けるとよかったと思う。

## ⑥ 今後、食の安全・安心・リスクに係る分野で、どのようなテーマのフォーラムを希望されますか？

食糧増産にはかなりの環境や労働などに負荷を与えることになるかと思えますので、SDGsとの関連について議論していただくことはいかがでしょうか？
残留農薬、残留医薬品の管理、また今後の技術進歩による代替食品へのリスクについて議論したいです
昆虫食
安全性評価の種類と意義、特に次世代・次々世代への健康影響をどのように評価しているか
今回思ったのは、日本人のメディア特性の理解、世界的にみる日本人の国民性の影響(ホフシュテードの国民性比較を参照)や世代間・地域間での違い、海外への有効な発信、でしょうか。また、国・行政、消費者、企業、研究機関の役割もリスコミなら継続的なテーマですね。
次々回の食品添加物は、期待しています。
生鮮野菜に意図せず混入する生物(カエル混入)、食品の原料原産地表示制度など
大手食品企業が安全面でどのような技術革新を進めているのか、現状を知りたい。
放射線処理(スパイスの殺菌、じゃがいもの芽を殺す、牛生肉の表面殺菌など)
ALPS処理水の件で興味があり、拝聴しました。
食経験のない新しい食べ物…昆虫食、培養肉、プラントベースフードの安全評価
代替肉(培養肉)の安全性について
メディアの責任について

## ⑦ トリチウム処理水のリスコミのあり方について、どうあるべきでしょうか？ご意見をお書きください

まず、科学的データに基づき報道すること。データが難しい場合に、翻訳することが役割の基本だろう。それに対する認識は、個人か会社か、ということを確認にすべき。インターネットなどで情報が浅薄化していくなかで、なんとなく不安から何となく安心と思ってもらえる伝え方はよく考えていく必要があると思います
極端なことを言えば、トリチウム処理水における情報を日本国中で1日中配信、教育する日を設ける事でも変わると思います。情報の量と質、それこと濃度だと思います
小島先生のお話で、桜島の灰の缶詰のような製品をつくり、みんなで放水するイベント、ぜひ実現してほしいと思います。
SNSや動画などで、インフルエンサーがさりげなく安全だと伝え続けたほうが、若い人たちを中心に広がるのではないのでしょうか？
原発敷地のタンクが一杯になったら、海洋放出せざるをえないと思いますが、放出開始で終わるのではなく、国や東電は、モニタリングを継続し、公表し続けてほしいと思います。プッシュ型でデータ公表するのは好ましくないという話もありましたが、1か月後、半年後、1年後など、節目には積極的にお知らせしてほしいです。
根拠のうすい不安を煽る恣意的なマスコミ報道こそが風評被害の最大の原因になっていることをマスコミ自身が自覚して、報道の手法を改善して報道責任を果たしていくべきだと感じました。
トリチウムの体内被ばくが、昔からあり、有害でないことの事実の繰り返しの報道。これもさることながら、蓄積しないこと、カリウム40などの体内被曝の方が多く、などでリスク感を醸成していくことも有効だと思います。これを基礎にして、生産者の希望を共有して、共感を持ってもらうことも大事ですね。
魚の流通や販売に関わる企業が積極的に発言することも大事ではないかと思えます。メディアの分断に負けてられません。
国、東電、メディアのどれもが欠けても難しいでしょう。
みな忘れればよいという感想がありましたが、忘れてよいことだとも思えません。
・正しい情報を区別して伝えるこちが理解に繋がる ・昨日のリスコミでも、他の報道など例を出すと、何が本当か分からない、伝え方はへたくそだと思ふ
今回のフォーラムで挙げて頂いたような科学的事実に基づいた情報を、中立的なメディア・サイトで、国民向け、報道機関向け、流通事業者向けに、分かりやすくまとめて、
風評被害の大きな要因は消費者ではなく流通業者にある、という指摘が印象に残りました。企業に焦点をあてた施策がもっと必要だと思います。
福島の漁業者(県漁連)と福島県主催で「福島の魚を食べようフェスティバル」を全国で開催し、魚を安価で提供すると共に安全性もPR。それをマスメディアで報道するのが効果的。とりあえず海のない埼玉、群馬、栃木県や漁業者の少ない東京都などでできないか？
記事になるのは、「大変、怖い、面白い」だと聞いたことがあります
SNSに拡散される外食店でいたずらも、ワイドショーなどが繰り返し興味本位の映像を流すことによって、関係者の被害を広げる結果になり、人生を狂わす少年がいます
トリチウム処理水も、いたずらに不安を煽るのではなく、様々な視点から冷静な報道をと解説をお願いしたい

トリチウム水を海洋放出した時、岸田総理が記者会見で切実に訴えたらどうだろうか。
ニュースにすること自体がもう無駄のような。漁業者が面子で反対運動しているようでは絶望的でしょう。
各報道記事とそのファクトチェックを粘り強く続け、報道だけでは情報が不足しているという認識を共通認識に変えていく必要があると感じました
トリチウムの処理水について、本気で理解してもらう姿勢を国や東電に感じられません。トリチウムは福島事故とは別のものであると明確に説明してきていないと思います。ALPS水はトリチウムを除けないために希釈しなければならないことをどれほど国民は理解しているのでしょうか。
処理水放水後は淡々と放水モニター値を報道する。 放流後に通常通り海産物を購入している消費者や事業者の声を公開する 風評で被害を受けた現地の個々の業者業界の事業努力を応援する人達を世間に公開する リチウム水タンクを除去した放射性物質の保管増値場所として活用する事を提案する 福島事故後もそうであったように一般の人々の間では3年もすれば処理水問題は沈静化する
トリチウムを正しく理解するための情報、世界における対応の実態
他の国の原発からも放出されている事、福島原発からの処理水が本質的に変わらない事等もっと積極的に報道されるようにメディア向けのフォーラムを数多く開催してはどうでしょうか。
放射線検査や評価を過度に報道することは、かえって風評被害を助長する可能性がある。まずはメディアが、福島のトリチウム処理水だけを特別に扱うのではなく、公的機関が発する科学的視点に基づき、他のリスクファクターと同列に扱って報道するべきだと感じた。そして国民も情報を冷静に受け止め、流通している食品は全て基準をクリアし安全であると理解することが重要だと考える。
国がこのままリスクミスを続けていくとして、マスクミスが変わらないと処理水だけでなく他の風評被害も起こり得ると思います。世界に正しい情報が伝わらないことへの対策も早く取っていくべきと考えました。

**⑧ 今回のオンライン・フォーラムについて、ご要望や改善すべき点がありましたら、ご意見をお書きください**

特にありません。地方の人間からすると、オンラインでの開催は本当に助かっています。大変ですが、今後ともよろしく願います。
マイク設備が新しいとのことでしたが、そのせいか、不慣れで楽屋裏の声を聞こえてきたので、次回は改善されることを期待します。
今回、ZOOMで講演を聞かせて頂いていましたが、声は良く聞こえていました。会場内はマイクが調子悪かったようですが、ときおり音声が聴き取りづらいところがありました。
Zoomで発表者ツールを使っていると、画面にメモが出てしまうのですが、これを回避する方法はいろいろなHPに書いてあります(共有の一時停止→新しい共有…)。もっとも、PowerPointの発表者ツールを無効にすれば良いわけですが。
ハイブリッドでの開催は御苦労があると思いますが、マイクの調整などよろしくお願いいたします。

**⑨ SFSS事務局へのご要望**

考えさせられることが多いフォーラムでした。とても良かったです。ありがとうございました。
今回は会場に行けず申し訳なかったです。良い学習の機会をありがとうございました。
アットホームな空気感での進行によって講演者の本音も垣間見え、4時間という長丁場もみじかく感じられました。